「第3回目1電位

考える内容

- ・ 静電気力に逆らってする仕事から,静電エネルギー(静電気力の位置エネルギー)を考える
- ・ 重力の位置エネルギーと「高さ」との類似から、静電エネルギーに対する「電位差」と「電位」 を導入する

物理用語

・ 無限遠点 ~ 今考えている帯電体から,電荷に働く静電気力が非常に弱くなる十分遠方 (実際には,数学的な意味で無限に遠くなくてもよい)

今日の授業の目標

電位差 V 単位 V (ボルト)

静電気力に逆らってする仕事 $W_{\mathfrak{h}}$ [単位 J (ジュール)]

$$W_{\mathfrak{H}} = qV$$

電場 E [単位 V/m は N/C と同じ]

$$E = \frac{V}{d}, \qquad V = Ed$$

電位 (r)の定義

単位 V(ボルト)

$$\phi(\mathbf{r}) = \frac{U_{\mathbf{z}}(\mathbf{r})}{q}, \qquad U_{\mathbf{z}}(\mathbf{r}) = q\phi(\mathbf{r})$$

(参考) 電気容量 C 単位 F(ファラッド) $C = \frac{Q}{V}, Q = CV$

企 学習到達目標 (2)電位と静電(気)エネルギーの関係式が書ける。

次回予定[第4回目]静電場のガウスの法則(教科書98ページまで)

数値で計算する問題は、答えにも必ず単位をつけること!

力 F がする仕事 W の定義式を F , s , を使って表せ。 [教科書 10 ページの式 (2.10)]

電位差 V の定義式と電位差の単位を書け。[教科書 84 ページの式 (5.18)]

2 箇所の位置 A 点と B 点との電位差は V=5 V であり ,B 点の方が電位が高いとする。A 点から B 点まで q=2 C の電荷を運ぶのに必要な仕事 $W_{\mathfrak{H}}$ を求めなさい。

電位差 V と電場の強さ E との関係を表す式を書け。[教科書の式 (5.19)]

- 一様な電場 E を考える。電気力線に沿って距離 d=2 m 離れた位置に A 点と B 点をとる。A 点と B 点との電位差が V=6 V であり,B 点の方が電位が高いとする。電場の強さ E を求めなさい。また,A 点に q=5 C の電荷を置いたときに働く力の大きさ F を求めなさい。
- 一様な電場 E を考える。電場の強さを E=3 V/m とする。電気力線に沿って距離 d=4 m 離れた位置に A 点と B 点をとる。 A 点と B 点との電位差 V を求めなさい。

電位 ϕ (r)と静電エネルギーU α (r)との関係式を書きなさい。[教科書の式 (5.36)]

点電荷 Q による電位の式を書け。無限遠を電位の基準とする。[教科書の式 (5.35)]

電場の単位の V/m が N/C に等しいことを示せ。[教科書の問 5.8]

 $S=1~{
m cm}^2$, $d=1~{
m mm}$ の平行板コンデンサーの電気容量 C を求めよ。

 $C=5 \text{ pF}=5 \times 10^{-12} \text{ F}$ のコンデンサーに,V=2 V の電位差(電圧)を与えるとき,蓄えられる電荷 Q を求めなさい。

解答用紙 (曜 限)<u>学籍番号 氏名</u> 数値で計算する問題は,答えにも必ず単位をつけること!

式 W=

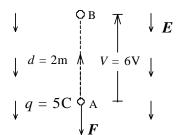
電位差の単位[]





$$E =$$

$$F =$$

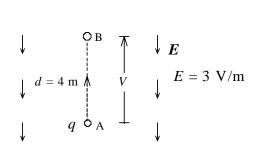


q = 2C

V =



$$\phi_{\mathcal{I}-\square\mathcal{V}}(r) =$$



$$C = \varepsilon_0 \frac{S}{d} =$$

$$Q = CV =$$

このレポートをやるのに 時間 分,

それ以外に基礎物理 の予習復習を 時間 分した。